世界へのプレゼントになろう

地区行動目標：「原点を知り、考える」クラブスローガン：「協力し合い、楽しもうクラブライフを！」

国際ロータリー第2790地区
第3分区A
千葉西ロータリークラブ

The 40th anniversary memory

WEEKLY COMMUNICATION

創　立　1976年1月20日　　承　認　1976年2月25日
会　長　野口正夫　　幹　事　藤崎泰裕
例会場　千葉スカイウインドウズ 東天紅　センシティタワー23階
TEL 043-238-5555
例会日　毎週火曜日 12:30～
事務局　千葉市中央区新田町12-1　トーシン千葉ビル7階
TEL 043-245-3202　FAX 043-245-7522
E-mail：chibawestrc@wrpc.co.jp
URL：http://www.chibawest-rc.net/

会長挨拶

■野口正夫 会長

会場監督、通常SAA（Sergeant-at-arms）と呼ばれていますが、武装軍曹の意で、本来は英国王室・議会の守衛官のことを言います。

その由来は、古くはイギリスの封建時代にさかのぼり、国王や大領主の行う各種の儀式においてこれを妨げ、秩序を乱すのを防ぎ、儀式を監督することを職務としており、その責任は重く、厳重に武装している（at arm）のが常とされていました。

ところが、この制度がアメリカの議会に導入され、それがロータリーにも及んだものと考えられますが、SAAが正式な役職として定められたのは1906年で、ポール・ハリス、マックス・ウオルフ、チャールス・ニュートンがシカゴ・クラブの最初のSAAに就任しております。

ロータリーにおけるSAAは、クラブ例会その他の会合において、気品と風紀を守り、会合がその目的を発揮できるよう設営し、監督する責任があります。つまり、例会場において最高の権限をもつクラブ役員の一人なのです。

さて、時の経つのは早いもので師走です。これからは仕事に、プライベートに多忙な日々を過ごされると思いますが、健康には十分お気を付け下さい。

ロータリーの基本は、奉仕、拡大、友情と申します。先週の卓話の折り６～10%前後自然退会があるようですと申し上げました。残念ですが、当クラブも退会者の申し出がございます。何とか退会防止に努めなければなりません。親睦活動、同好会活動等にもお誘いしロータリーの楽しさと感動を体験していただければ増強や退会防止につながらないでしょうか。自然とロータリーに興味を持っていただくようにしたいものです。

■四つのテスト／花澤誠一郎 会員

「言行はこれに照らしてから」
1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか

■本日のお客様

天澤退二郎 様
（公益信託千葉西RC青少年育英委員）
森　敦 様
（公益信託千葉西RC青少年育英委員）

■幹事報告

千葉若潮RC忘年家族例会のご案内

12月17日（木）18：00　ホテルニューオータニ幕張「シェルハウス」　登録10,000円
登録ご希望の方は、事務局までお申し込みください

新入会員卓話

■仲村眞一 会員

千葉興行銀行の仲村です。本日は、新入会員卓話ということですので、本来ならば金融機関に勤める者として、経済について等お話すべきだと思っておりますが、私からは家族の紹介を含めて、2011年自分の身近におきた東日本大震災での感動したお話をさせていただきます。私の弟は、福島におり、尚志高校教員で、サッカー部監督でもあります。現在福島では全国高校サッカー出場校の常連となっており、福島県内から千葉県・茨城県など関東各県から選手が集まっています。震災後、震災情報が錯綜し、見えない恐怖に誰もがおびえていた時です。震災から4日後の15日、弟は関東圏のサッカー部員を親元に帰そうと、自らハンドルを握り、千葉県へ向けて走りました。高速道路は通行止め、ガソリン問題もあり、一般道で千葉県蘇我駅まで13時間かけて到着。すべて親御さんに引き渡したのは、午前3時でした。親は涙ながらに「ありがとうございました」と言葉を残しかえられていきました。もうこの子達とサッカーはできない、そう感じながら21日福島に向け1人で帰省。みんなとサッカーをするためには、そう考えながら各所相談した結果、千葉県で練習をすることになりました。これは、震災から3年後2014年3月千葉日報に、千葉県と福島県を結んだ出来事として掲載されました。話はもどり、3月下旬、福島に残った部員と関東にもどった部員の再会と練習再開で、いろいろな思いや苦労を跳ね除け、明るく元気にボールを追う選手をみて、心を打たれ、関係者皆がこの日を忘れない日となり、鮮明に覚えています。また、私の卒業した大森小学校で、家族・近状の方・生徒と親、様々な協力のもと、バーベキュウーをし、人の優しさにふれられたことも忘れられない出来事です。その苦しさや人の優しさが、選手たちの心のうちで『福島に勇気を、サッカーで福島の希望の星になる　感謝の心で』一体感と絆を胸に、結果その年の冬の全国高校サッカーベスト4になった。震災というショックを力にした選手、さまざまな支援と感動をもらった選手が、全国にまた地元に明るい話題を提供したのです。これはロータリーの精神と同様なことだと感じております。3.11の日のたびに、普通の生活ができる喜びに感じますし、決して忘れてはならない事実と思います。最後に、母校尚志高校は、今年の冬の全国高校サッカー大会に福島代表で出場します。ぜひ皆様からも、温かいご声援応援をいただきたいとお願いしまして、終わりとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。